

田んぼ(代表名)、広さ、品種、田植え日、参加人数、ひとこと:

◆やまちゃん田んぼ(山室)、1反5畝、さとじまん、朝紫、神丹穂、6月1・2日、約20人、「今年も苗は大きく立派に出来ました。収穫が楽しみです」

◆欠ノ上田んぼ(笹村 出)、2反5畝「さとじまん」、2畝「マンゲツモチ」、6月1日10名、2日18名で、手植えの田植えをしました。「久野川沿いの11枚に分かれた棚田です。水は冷たいですが、自由にいつでも川から入れることができます。入水口の溜池1畝には、クワイ。隣地に柿、栗の果樹が1反あります。枝豆、里芋、さつまいも、トマトなども、木の下で作っています。欠ノ上の苗代で5葉期苗を6週育苗します。田んぼメンバーは10名。24センチ角で植えています。線引の道具で、線を明確に引くことを重視しています。草抑えにはソバカス散布をして、トトロ口層の形成を行い、8センチ以上の深水です。担当の田んぼが決めてあり、各々、ころがしを縦横入れます。」

◆新永塚田んぼ(大瀬)、2反、キヌヒカリ・満月餅、6月2・3日、延べ23人、「今年はロープを張って田植え実施。除草対策をいくつかやりましたが効果薄く、草取りに奮闘中。」

◆あじさい田んぼ(瀬戸)、4畝、さとじまん、6月8日、9人、「あじさいは咲く、水車は廻る、枇杷は生る、楽しい田植え」

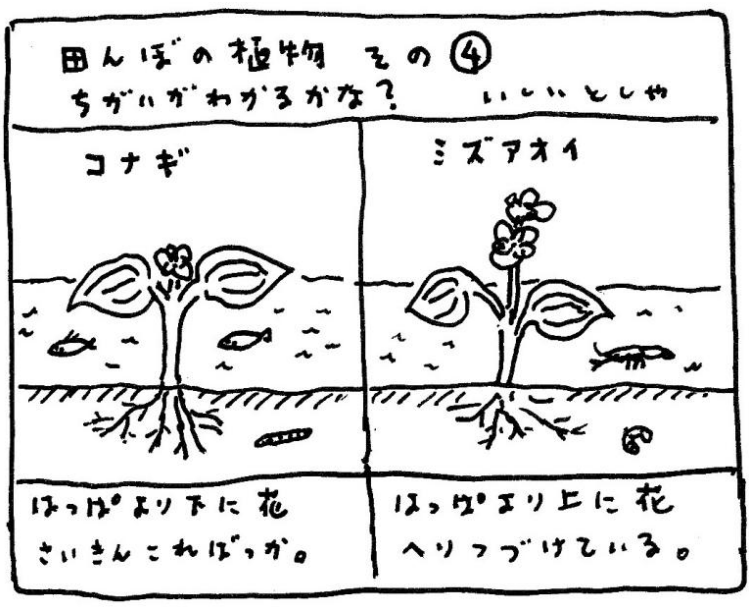
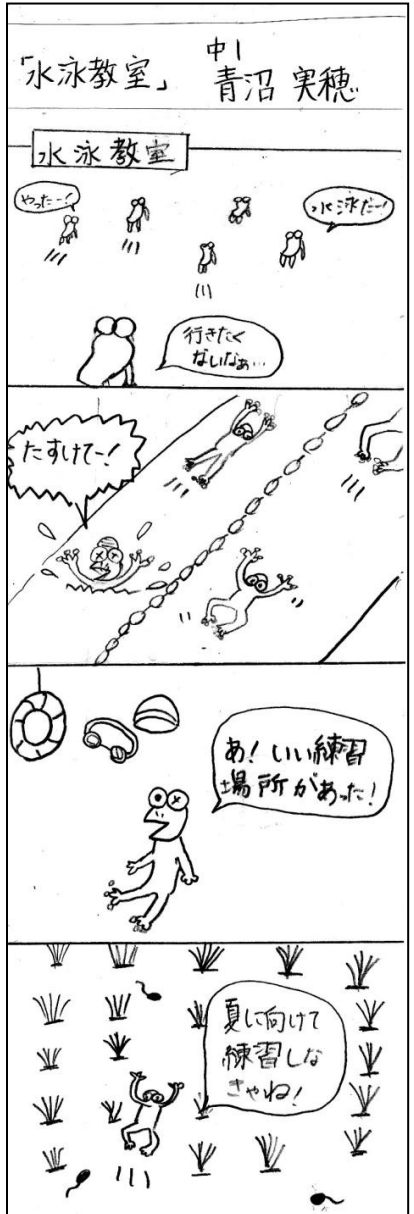
◆親子たんぼ(今年は梅崎です)、2反6~7畝、あきにしき・光新世紀、6月8・9日、約40+25人、「妊婦、幼児、学生から、フランス語、中国語など、にぎやかな田植えでした。」「各家族が友人や職場の人を招いて、賑やかに田植えをしました。お昼は恒例の各家庭のカレーの持ち寄りで、六種類のカレーの鍋が並びました。甘い辛い家庭によってそれぞれで、ブレンドして食べるのがとってもおいしいのです。」

◆梅の里田んぼ(今屋健一)、1反(今年は倉庫の関係もあり半分面積に)、里じまん、6月9日、33人、「他のイベントと重なり参加者が少なかったのですが、植え付け面積を半分にしたため、午前中で全ての作業は終了しました。植えていない田んぼを見るたびに寂しい気持ちになります。来年は例年通りに植えたいなあ〜」

◆舟原田んぼ(木村)、2反5畝、さとじまん、6月9日、約25人子供含む、「天候に恵まれ、お手伝いの方も多勢集まり、時間的にも余裕のある、楽しい田植えでした。」

◆子ノ神・岡本たんぼ(岡本孝伸)、6畝、さとじまん、6月15日、9人、「3年目の田んぼです」

◆子の神田んぼ(井関大介)、1反、さとじまん、6月15・16日、約30人、「苗不足等で諸方面にご迷惑をおかけしましたが、どうにか植えられました。ありがとうございました。」



田んぼの詩《田植え》(親子たんぼ 梅崎利通)

田植えは手植え 手植えが田植え
初めて田んぼに入った女の子
きゃーきゃー言って「おもしろ〜い」と叫んだ
小さな男の子は 恐る恐るぬるぬるにはまり込んで早速尻餅
お母さん困った 着替えを持ってきたかな
あれっ あの小学生はいつの間にか隣の列にずれちゃった
後の修正が大変だ とほほほ
植えながら「これ何の野菜植えるの?」と聞いたお兄さん
本当に知らなかったの? 信じられない!
オタマジャクシがうじゃうじゃ逃げ惑い
ゲンゴロウがもぞもぞ潜水し
雨蛙はまだら模様に変身したまま漂い
蛭も虎視眈々と獲物をねらってじっとしている
援軍のお兄さんお姉さん達は疲れ知らずで さっさっさっ
我らおじさんおばさん連中は腰が痛い膝が痛いとうめきつつ
やっどの思いで よろよろ前進だ
おや フランス人もいる 中国語も聞こえる 国際的だな
わいわい げらげら きゃーきゃー べちゃくちや
手植えの田植えで どんこへどへど 汗いっぱい
でも やがてアジサイ色に黄昏れる頃
苗たちもみるみる元気に整列はじめ
優しい小風が田んぼの上をさわさわと駆け抜けていった

自然養鶏研修報告①

檀上貴史

<はじめに>

はじめまして。笹村農鶏園研修員の檀上貴史と申します。2012年8月、笹村さんの下で自然養鶏を学び始め、2013年4月、笹村さんをはじめ、農の会の皆様、また地域の方々にご協力いただき、機械小屋上の養鶏場にて実践研修を開始することができました。

ご協力いただいた方々に、この場を借りして御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

<実践研修(育雛編)>

実践研修は112羽の初生ヒナの育雛から開始しました。ワクチンや薬剤を使用しない自然養鶏では、最初の10日間の飼育のあり方がとても重要です。なぜなら、親鶏から受け継いだ免疫があるうちに、ヒナ自身の免疫力を向上させる必要があるからです。今回は、免疫力向上のために、踏み込み温床を利用しました。近くの山から集めた落ち葉・腐葉土で作った温床には、様々な地場の菌・微生物が繁殖するため、その上で育雛すれば免疫力の向上に繋がるとの考えからです。結果として、1羽の脱落はありましたが、111羽は地場の菌・微生物に打ち勝ち、免疫力をもって、中ヒナへと成長できました。

第6回 料理の会 「キュウリ・ナスの美味しい活用法☆」・・・この時期になると、たくさん獲れるキュウリやナス。生でがぶつとかじるのが一番美味しい食べ方ですが、せっかくだとたくさん獲れたので、上手にお料理に活用したい ☆シェフのおススメレシピを教えてくださいました。

・干し野菜炒め 軽く干した野菜(キュウリ・ナス・ニンジン)をお酒で少しもどします。油で炒めて好みの味付けでどうぞ！※今回は相原さん豚のトマトソースでからめていただきました。

・ババガヌーシュ、かな？(ナスのディップ中東風)
ニンニクはひと固まり(5~6片)を油でゆっくりあげて潰します。そこに薄くスライスした玉ねぎ1個分を弱火でしんなりするまで炒めて、皮をむいてサイコロ状にしたナス3本分も投入して炒めます。そこに唐辛子(種抜き3本)と香辛料(シナモン、ターメリック、コリアンダー少々とローリエ1枚)を入れて風味付けをつけます。最後に味を見ながら塩コショウ少々で出来上がり。ブレンダーでペースト状に。※ガーリックトーストにつけて食べたら最高でした☆

・おまけ:菜こんたん特製☆鶏肉のワカメ入りロール
鶏のムネ肉に塩コショウをまぶしておく。軽く水洗いした塩ワカメをはさんでくるっとまわってラップでまきます。60℃~80℃で30分ぐらい蒸したらでき上がり。 ※お皿にお野菜と一緒に飾るとすごく華やか。ちょっとしたパーティーに活躍しそうです♪ ❀❀❀ 今回もシェフの豆知識や小話を聞きながら皆で出来上がったお料理を楽しく試食させてもらっちゃいました~☆ ご馳走さまでした!! (佐藤 宏子)

「大豆が発芽しました」 大豆の会 太田洋和

大豆畑を今年から小麦畑と交互に栽培することになりました。気になる小麦は豊作だったようです。大豆も良い流れで収量が増えるといいなあ。鶏糞とソバカスが撒かれ耕された畑は「早く植えてくれよ」と待っています。

6月26日に種(小糸在来種)を蒔きました。今年も「土中緑化法」を採用し、元気な苗でたくさん大豆が採れることを願っています。6月30日、トレーの中にはたくさんの芽が出ていました。今後日光に当て緑化、断根・挿し芽そして待ちたびれている？畑へ植えつけて行きます。

もうすでに味噌作りを想像してヨダレを垂らしていませんか？



豚小屋通信 07 '13 こぶた畑 相原 海

「援助から投資へ」アフリカ開発会議の前日、日本政府や伊藤忠が、日本の農地の3倍の面積を大豆やゴマの大産地にしようというプロジェクトに対して、モザンビークの農民代表が、公開書簡を安倍首相に手渡したそうです。

「そんなことをされたら、自給農業で生きていた夥しい数の人達が、農地から引き離されて、食べていけなくなってしまう」という事です。

GDPを上げることと、地域を支えるということが別なことなんだという指摘、アベのミス殿下に分かるかどうか …。

TPP対策として出てきた「攻めの農業」とやらも同じ勘違い政策に見えます。輸出型のカッコイイ農業にいくらテコ入れしても、条件不利のショボイ農業が支えている地方経済も農村景観も、こぼれ落ちるのは変わりません。こぼれ落ちた人達が、新しい産業に曲がりなりにも吸収された高度成長の時代ならいざ知らず、この成熟期に、地方を広く支えてくれる産業を潰すというのは、短期的な成長しか目に見えない投機家の視点です。一国を運営する政治家の視点とは思えません。

「額に汗して働く人が報われる社会に！」(by 首相) どの誰のことじゃ？

ショボイ農民は考えちゃいます。

今年も半年が過ぎました。振り返って見ると、新しいお客さんへの宅配が始まったり、新しい野菜の栽培に挑戦したり、忙しいながらも充実した半年になりました。

これから7月8月と暑さの厳しい時期になりますが、秋冬野菜も上手には頑張りどころなので調子を維持できるようにいきたいです。

(ののき農場・斉藤秀彦)

